

北九州商船會社乗組高級船員に對する待遇改善要求と團體協約の締結に成功したるが如き其の著しきものである。其の他海員組合三池支部會館の建設、或は三池、戸畑に於ける日本海員會館船員失業共済部の新設や、港灣從業員組合戸畑水産支部を組織して共同漁業、東洋漁業兩社の關係漁業船乗組員を海員組合組織下より獨立結成せしめたるが如き、或は亦若松港内野船船長百餘名が港灣從業員組合に加入したるが如き或は門司支部主催第一回海上メーデーの舉行等、福利施設に海上戦線の擴大強化に何れも看過し難きところであつた。

一方海員組合の當地方に於ける革正運動は、門司支部常務杉山兼太郎氏が本年二月京都に於ける革正委員會組織の謀議に其の中堅分子として參加して歸來後革正運動を開始し、七月末に其の職を辭すると共に門司市畑田町に革正同盟門司支部

の看板を掲げ海友俱樂部と提擧し、若松、戸畑、八幡に夫々責任者を設け猛烈なる運動を継続した爲に、一時門司、戸畑等の各支部共革正運動に參加する者増加し、九月頃に至りては革正派の勢力に壓倒せらるるにあらずやとさへ見られたのであつたが、九月二十四日の全國支部長會議後門司戸畑等各支部長の態度漸やく強硬となり、強化聯盟支部を設置して組合擁護の旗幟を明確にすることとなつたのである。從て其の後兩者の對立抗争漸次激化するに至り、しかも其の間六月末には濱田組會長、十月上旬には堀内副組會長、越へて十一月上旬には赤崎革正同盟委員長の來縣するありて、十月八日の第三回評議員會後の兩者の關係は甚數尖鋭化し、若松港に於ける暴行事件の發生となり、日常各所に對峙の氣勢を示し事順順る悪化するに至つたので遂に警察當局の警告を見ること